課題番号４

複合経営の安定化と担い手を核とした地域農業の振興

～ A.N.M　(A)新しい(N)西美唄を(M)盛り上げよう ～

対象：美唄市西美唄地域（１８戸）　　令和３～7年

１　活動の背景

西美唄地域の概要

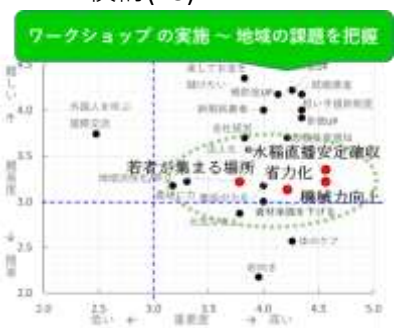
水稲、小麦、大豆を主体とした複合経営
経 営 規 模 ：R2 18.8ha／戸→R7　21.3ha
経営主年齢： R2平均53歳→R7　55歳
米麦営農組合（共同）：
西美唄米麦、元村米麦、アグリ山形

図１　Ｒ２西美唄地区の農業粗収入

現状	問題点	課題
転作作物の収入(交付金等含む)が60％を占める。	水稲との春作業競合 秋まき小麦の収量が不安定	**直播水稲技術の普及** **秋まき小麦の収量向上**
３米麦営農組合が存在 若手の規模拡大志向	各組合間の意見交換、若手農業者が地域農業を考える場がない	**若手農業者への技術伝承** **田畑転換について検討**

２　活動の経過

（１）考える会の設立と振興方策の検討(R3)



（２）基幹作物の生産性向上
☞直播基本技術の実践(R3−7)

☞秋まき小麦の適正施肥管理の実践(R3-4)

（３）担い手による地域農業の振興
☞輪作体系導入に向けた検討（R4-6）

☞若手農業者の畑作物技術習得(R6−7)

☞西美唄通信で情報提供

3　成果の具体的内容

地域で**水稲乾田直播栽培技術が定着**し、苗立本数、穂数の確保→全員が**600kg/10a達成**
米をめぐる情勢の変化によって直播↔移植を選択可能

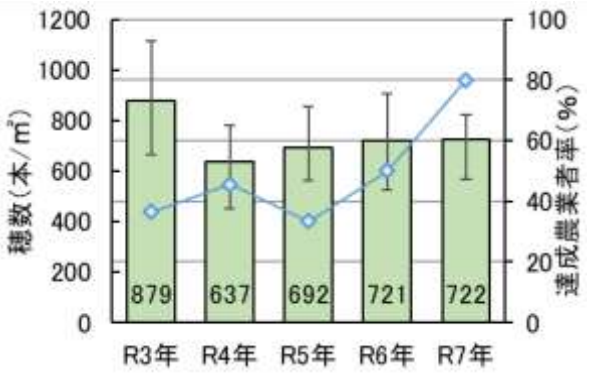


図２　穂数の推移と700本以上達成戸数割合

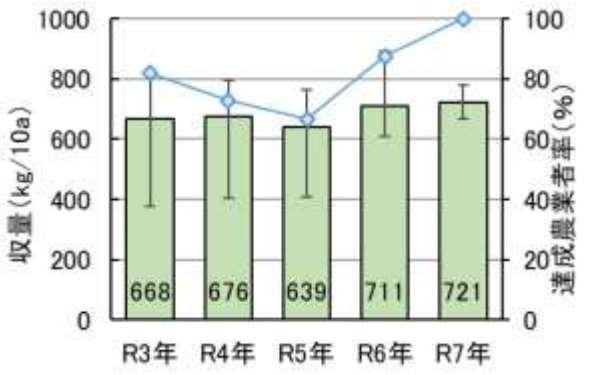


図３　収量の推移と600kg/10a達成戸数割合

※エラーバーは上側は最大値、下側は最小値を表す

秋まき小麦適正肥培管理の達成率は
90%以上、**歩留まりと収量が向上**した

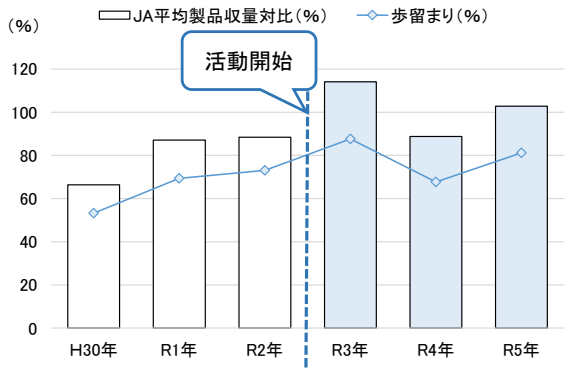


図４　秋まき小麦の歩留まりとJA平均製品収量対比の年次推移

土壌特性や輪作体系に応じた排水対策を地域で共有

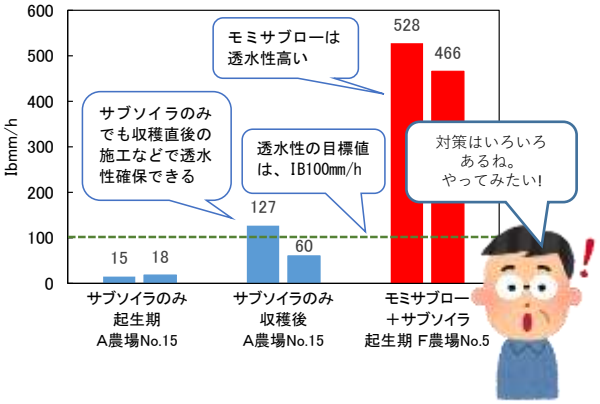
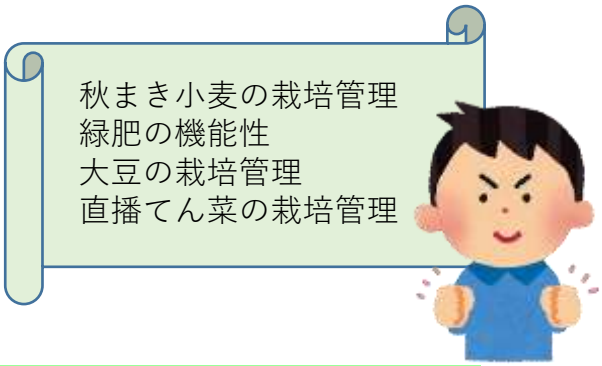


図５　排水対策による透水性の違い

若手農家のスキルアップができた



5年間で80%の農業者が「非常に有益」と評価、**満足度の高い普及活動**

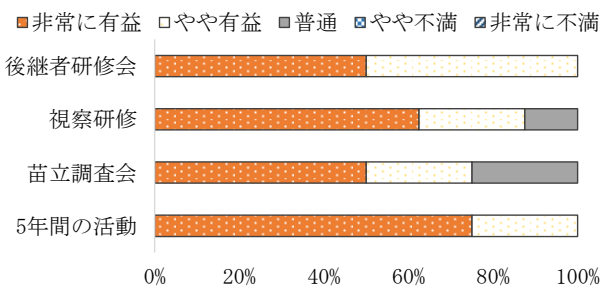


図６　重点活動についての評価アンケート結果（R7）

4　今後の課題と対応

当地区での活動を終了するが、引き続き、美唄市での水稲・畑作物の安定生産、水稲を含めた輪作体系の推進とほ場管理、若手への技術継承等の活動を行う。